

# 日本人韓国語学習者の語彙習得

—漢字語に関する韓国語教科書と学習者の研究—

原 瑞 穂

## 1. はじめに

韓国語（注1）の文字表記は漢字語もハングルで表記する方向へ変わっているが、韓国は漢字文化圏であり、韓国語には日本語と類似する漢字由来の語彙も多い。そのため、日本語の漢字能力は韓国語を学ぶうえで大いに利用できるといわれている。私自身、韓国語学習を始めて数ヶ月で、ハングルで書かれた語が漢字語であるかどうか感覚的にわかるようになり、中級クラスでハングルと日本語の漢字音との対応関係をルールとして習ってからは、語彙量が飛躍的に伸びた。しかしそれは学習4年目、先生が作られたプリントによる授業でのことで、大学の韓国語教育では教科書から漢字語の知識を得たり特徴を体系的に学んだりする機会が少なく、日本人韓国語学習者が語彙を習得する際に日本語の漢字能力はあまり意識されず、学習者もまた意識していないのではないかと感じた。

本研究では、四年制大学で使用されている教科書に現れる漢字語と、日本人韓国語学習者の漢字語に対する意識を調査することにより、日本人韓国語学習者の語彙習得における漢字語知識の活用について考察する。

また、韓国語において漢字で書くことが可能であり、韓国漢字音で読まれる語彙の呼び方は志部昭平（1989）に倣い「漢字語」とし、日本語において漢字で書くことが可能であり、日本漢字音で読まれる語彙は「漢語」とする。

## 2. 韓国語における漢字使用状況

19世紀末、韓国の文字表記の中心は漢文から漢字ハングル混用文やハングル専用文に移り、1945年の植民地支配解放後は、漢字とハングルの混せて表記すべきだという国漢混用論とハングル専用論が対立してきた（文嬉眞2007，生越直樹2005，志部昭平1987）。

韓国において「現在、印刷物で漢字が使用されているのは、教科書（同音異義語，難解語に漢字併記），新聞（見出し），人文社会系専門書・論文程度であり，その使用比率

も低い。小説・エッセイなど一般向けの書籍や趣味関係の雑誌は、ハングルのみで書かれている」と生越直樹（2005, p.157-159）（注2）は記している。一般に漢字を使う機会は少なくハングル専用に近いが、漢字を使用した表記がされなくなっただけで、漢字表記可能な語がハングルで書かれているものはあらゆる場面に存在する。その数については、油谷幸利（2005, p.82）が「漢字語についての正確な統計はまだ無いが、日本語と韓国語で用いられる漢字語の8割以上が共通するものと思われる」と述べている。李漢燮（1994）は、現在韓国で使われる漢字語の中には、19世紀末から日本の植民地時代にかけ、漢字という文字を介して韓国の字音読みで受け入れた日本製漢語が数多く含まれると記している。

### 3. 日本における韓国語教育

日本における韓国語教育については、財団法人国際文化フォーラムが日本の学校での韓国語教育について調査を行った、『日本の学校における韓国朝鮮語教育：大学等と高等学校の現状と課題』（国際文化フォーラム2005）の資料をもとにした研究がいくつかある。金泰虎（2005）は大学の初級韓国語テキストの出版を整理し、大学の採択している初級韓国語テキスト上位5位を分析し、文法用語、収録内容や語彙数がまちまちであることを明らかにしている。また、桂正淑（2005）は韓国語テキストの比較から日本の韓国語学習・教育の問題点を示す中で、「韓国で使われている漢字を日本語と対照して学習する方法は、韓国語の語彙を増やすために非常に効果的な方法である」（p.43）と述べ、日韓両語で同じ漢語・漢字語に下線を引く（한국）などを行っている教科書や、韓国で使われる漢字の字体、いわゆる旧字体の漢字併用（例：한국 韓国 [韓國]）をしている教科書を、細かい配慮が目立つと評価している。

### 4. 研究目的

先行研究が示すように日本語と韓国語の漢字語には共通語彙が多い。両国語の漢字は字体や用法に異同があるため注意が必要だが、語彙習得に日本語能力を活かすことができる韓国語は、一般に日本人にとって学びやすい言語といえるだろう。しかし日本人韓国語学習者は漢字語をどう感じているのか。日本における韓国語教育に関して、語彙や教材の比較研究は多くあるが、日本人学習者の漢字語学習に着目した研究は見あたらないため、本研究では、韓国語教科書における漢字語の使用状況とその表記の実態と、日本人韓国語学習者の漢字語に対する意識を明らかにする。

## 5. 韓国語教科書における漢字語の使用状況

### 5.1. 調査対象と方法

国際文化フォーラム（2005）『日本の学校における韓国朝鮮語教育：大学等と高等学校の現状と課題』で示される「四年制大学の使用教材：2002-03年度」のうち、日本で出版されている教科書で、使用している大学数の上位10冊と、韓国語教科書の調査を基に行う質問紙調査対象の学習者が使用している教科書2冊を対象として使用されている漢字語の調査を行った。調査対象教科書を表1に示す。

表1 調査対象とした韓国語教科書

教科書番号	著者・発行年・タイトル・出版社	サイズ	総頁数
1	生越直樹, 曹喜澈 (2000) 『ことばの架け橋』 白帝社	B5	170
2	高島淑郎 (2002) 『書いて覚える初級朝鮮語』 白水社	B5	129
3	長谷川由起子 (2001) 『コミュニケーション韓国語 会話編1』 白帝社	B5	126
4	李昌圭 (2000) 『韓国語中級』 白帝社	B5	190
5	李昌圭 (2000) 『韓国語初級』 白帝社	B5	206
6	金東漢, 張銀英 (1999) 『韓国語レッスン初級1』 スリーエーネットワーク	B5	170
7	油谷幸利, 南相璵2001 『総合韓国語1』 白帝社	B5	151
8	野間秀樹2000 『至福の朝鮮語』 朝日出版社	A5	296
9	松原孝俊, 金延宣, 黄聖媛 (1999) 『ポイントレッスン入門 韓国語』 東方書店	B5	142
10	木内明 (2002) 『基礎から学ぶ韓国語講座』 国書刊行会	B5	182
11	兼若逸之 (2001) 『うまくなる! 韓国語ステップ50』 明石書店	A5	240
12	兼若逸之 (2005) 『兼若博士の読んで、聞いて、話せるハンゲル』 NHK 出版	A5	236

各教科書について、全体の収録語彙数に対する漢字語の割合を出した。次に各漢字語を日本語の漢語との対応関係から、現在の用法に基づき以下の4つの類型に分類した。教科書の漢字語彙習得に対する配慮や工夫を考察するため、1～12の教科書それぞれに

対し、漢字・漢字語に関する記述の有無と、漢字併記など漢字語の表記方法を調べた。

この論文内で韓国語を提示する際は、ハングル（漢字語であれば韓国語の漢字／日本語の漢字：日本語訳）の順番で書く。

A：日本語と同じ構成の漢語があり、意味もほぼ共通のもの--영화（映畫／映画）

B：日本語と同じ構成の漢語はあるが、意味が異なるもの----내일（來日／來日：明日）

C：日本語と同じ構成の漢語がないもの-----근처（近處／近處：近所）

X：韓国語で、日本語に入っても変わらないもの-----신라（新羅／新羅）

## 5.2. 調査結果

まず、各教科書の収録語彙数と漢字語の割合を表2に示す。教科書全体の収録語彙数にはばらつきがあるが、漢字語が収録語彙中に一定の割合で含まれていることがわかる。

表2 収録語彙数、漢字語数と割合、漢字語の類型別数と割合

教科書 番号	語彙数	漢字 語数	割合	A		B		C		X	
				数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
1	1016	336	33.1%	233	69.35%	28	8.33%	34	10.12%	41	12.20%
2	836	317	37.9%	263	82.97%	17	5.36%	33	10.41%	4	1.26%
3	792	301	38.0%	234	77.74%	22	7.31%	38	12.62%	7	2.33%
4	362	123	34.0%	90	73.17%	11	8.94%	11	8.94%	11	8.94%
5	357	104	29.1%	76	73.08%	8	7.69%	15	14.42%	5	4.81%
6	426	151	35.4%	114	75.50%	16	10.60%	21	13.91%	0	0.00%
7	929	247	26.6%	185	74.90%	25	10.12%	31	12.55%	6	2.43%
8	817	290	35.5%	231	79.66%	19	6.55%	32	11.03%	8	2.76%
9	690	147	21.3%	102	69.39%	20	13.61%	24	16.33%	1	0.68%
10	—	326	—	240	73.62%	16	4.91%	31	9.51%	39	11.96%
11	807	228	28.3%	164	71.93%	21	9.21%	33	14.47%	10	4.39%
12	—	323	—	259	80.19%	14	4.33%	18	5.57%	32	9.91%

漢字語に関する記述と表記については、韓国語・日本語の漢字に関する記述や、漢字語に関する記述、ハングルで表記されている漢字語に下線を付したり、また（ ）や [ ] で漢字を併記するなどの工夫の程度は様々である。しかし、全語彙に対する漢字

語の割合が高い教科書には、いずれも文章による説明や解説があり、低い教科書は漢字語について触れた部分がない傾向が見られた。

## 6. 学習者の漢字語に対する意識

教科書の調査後、学習者の漢字語に対する意識を探るための質問紙調査を実施した。本研究では安龍洙（2000, 2001）の、日本語学習者の漢語の使用意識に関する研究の質問紙調査を基に、海保博之（1983）がいう「漢字存在感覚（注3）」を参考にして質問を作成した。

### 調査対象と方法

2008年度東京女子大学の韓国語クラスを履修中の学生164名の協力を得た。

質問紙調査は大学の韓国語初・中・上級の各クラスで実施した。学習者の属性については、現在までに履修している韓国語クラスの級（①初級 ②初級選択 ③中級 ④上級）と、コマ数を質問した。中級クラスは、初級を終えたばかりの学習者と韓国語を始めて4年目になる学習者とが混ざり、履修者間のレベル差が大きい。そのため、中級クラスでデータを得た学習者のうち、上級履修経験があると回答した場合は上級レベルとし、学習者を初・中・上級レベルに分けた。学習者の内訳を表3に示す。

表3 アンケート協力者の内訳

レベル 学年	初級	中級	上級	合計
1年生	81	0	0	81
2年生	27	29	0	56
3年生	9	4	2	15
4年生	5	1	6	12
合計	122	34	8	164

質問紙は、韓国語学習に対する意識、漢字語に対する意識、漢字語力・感覚の3つを観点に設問を作成した。実施時期は2008年10月、韓国語の授業内で行った。

漢字語に対する意識についての質問は、Q5～Q9の5つを設け、学習者が漢字語の知識をどのくらい持っているか、漢字語をどのように感じているのかを探った。

漢字語力・感覚についての質問は、Q10の1つを設けた。問題文中の漢字語を認識できるかを知るために、ハングルで書かれた文章中の漢字語と思われる部分を特定し、対応する漢字を書いてもらった。また、対応する漢字がわからなくとも、漢字語であると判断した部分には下線を引いてもらった。

Q10の問題の文章は辞書等の例文を基本に、語を漢字語に置き換え作成した。初級から上級まで共通の問題を使用した。基準は、教科書の調査から得られた、対象教科書何冊が各漢字語を収録しているかという数、及び、日本語と韓国語の対応関係から漢字語を分類した類型のA（日本語と同じ構成の漢語があり、意味もほぼ共通のもの）、B（日本語と同じ構成の漢語はあるが、意味が異なるもの）、C（日本語と同じ構成の漢語がないもの）にあたる語が入るように語を選び（Q10下線部・表11）、①～⑩を作成した。（注4）

#### 質問項目（Q5～10）

（説明）韓国語の文字はふつうハングルで書かれますが、漢字由来のことは漢字で書くこともできます。일본어のように日本語と漢字表記が同じものも、감기のように共通でないものもあります。この漢字で表記できる言葉を「漢字語」と呼びます。

Q5. 韓国語の漢字語と日本語の漢語に共通語彙があることを知っていましたか。

① 知っていた      ② 知らなかった → Q8へ

Q6. Q5で「① 知っていた」と答えた方におうかがいします。韓国語の漢字語と日本語の漢字における対応（일→一、日… 日→일といった関係）を知っていますか。

① 知っている      ② 知らない → Q8へ

Q7. Q6で「① 知っている」と答えた方におうかがいします。

韓国語の漢字語と日本語の漢字の対応を知ったのはなぜですか。

- ① 授業で先生が説明したから
- ② 授業で使っている教科書で読んだから
- ③ 授業以外の学習書を読んだから
- ④ 学んでいて気づいたから（時期・きっかけをお教えください）

⑤ その他 ( )

Q 8. 「韓国語の漢字語は日本語の漢語と類似点が多いから学習しやすい」と思いますか。

① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ 全くそう思わない

Q 9. 「韓国語の漢字語は日本語の漢語と部分的に違う点があるから、日本語の知識が邪魔になっている」と思いますか。

① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ 全くそう思わない

Q10. 次の文章中に出てくる漢字語の下に、対応する漢字（日本語の字体も可）を書いてください。また、知らないけれども漢字語であると思うものには \_\_\_ を引いてください。

① 1형에게 2전화를 걸었어요.

② 3책을 읽어서 컴퓨터의 4공부를 해요.

③ 그저께 5친구에게서 6편지가 왔습니다.

④ 바빠서 7점심은 아직 못 먹었어요.

⑤ 8영화 9시작을 알리는 벨소리가 들립니다.

⑥ 10학생 때는 11예술 디자인을 12전공했어요.

⑦ 13근처에 사는 할머니께 깍듯이 14인사합니다.

⑧ 15이해가 늦어서 16죄송합니다.

⑨ 17전철을 타기에는 다음 18정류장에서 내립니까?

⑩ 19매일 20태권도를 하긴 하지만 살이 안 빠져요.

1. 兄 / 2. 電話

3. 冊 / 4. 工夫

5. 親舊 / 6. 便紙

7. 點心

8. 映畫 / 9. 始作

10. 學生 / 11. 藝術 / 12. 專攻

13. 近處 / 14. 人事

15. 理解 / 16. 罪悚

17. 電鐵 / 18. 停留場

19. 毎日 / 20. 跆拳道

(実際の質問紙では、Q10の文章中の下線1～20、及び右の1～20の漢字語は付していない。)

## 7. 調査結果と分析

### 7.1. 漢字語に対する意識

#### 7.1.1. 漢字語と漢語の共通語彙の認識

韓国語の漢字語と日本語の漢語の共通語彙の認識についての質問(Q5)の回答をレベル別にまとめた結果を表4に示す。漢字語と漢語に共通語彙があるという事実について、①「知っていた」と回答した学習者の割合は、初級が約60%、中級が約80%、上級が100%と、韓国語のレベルが上がるほど高くなっている。漢字語と漢語に共通語彙があるということは、初級クラスで既出の語、例えば학생(學生/学生)、학과(學科/學

科), 교과서 (教科書/教科書) などから気づけそうであるが, 初級学習者の約40%が, ②「知らなかった」と回答しており, 共通語彙を認識している人は少ないことがQ5の結果からわかる。

表4 Q5 (漢字語と漢語の共通語彙の認識) の結果

選択	レベル	初級		中級		上級		合計	
① 知っていた		59.8%	73	79.4%	27	100.0%	8	65.9%	108
② 知らなかった		40.2%	49	20.6%	7	0.0%	0	34.1%	56
合計		100.0%	122	100.0%	34	100.0%	8	100.0%	164

### 7.1.2. 漢字語に対応する漢字の認識

漢字語と漢語に共通語彙があることを知っていた人(Q5で①と答えた人)に対する, 漢字語に対応する漢字の認識についての質問(Q6)の回答結果を表5に示す。Q6では, ハングルと漢字の対応関係を知っているかどうかを, 知っている程度(漢字の数)は問わずに聞いた。①「知っている」の回答率は韓国語のレベルが上がるほど高いが, どのレベルでもハングルと漢字の対応関係を知っている学習者の数は, 共通語彙の存在を知っている学習者数よりも少なく, 全体では30%以上減少している。

表5 Q6 (対応する漢字の認識) の結果

選択肢	レベル	初級		中級		上級		合計	
① 知っている		58.9%	42	74.1%	20	87.5%	7	64.5%	69
② 知らない		41.1%	30	25.9%	7	12.5%	1	35.5%	38
合計		100.0%	72	100.0%	27	100.0%	8	100.0%	107
無効回答			1		0		0		1

### 7.1.3. 漢字語と漢字の対応を知ったきっかけ

Q6で①と答えた人に対して, 漢字語と漢字の対応をどのように知ったかについての

質問（Q7）の結果を表6に示す。韓国語の漢字語と日本語の漢字の対応を知った一番の理由は、全レベルにおいて①「授業で先生が説明したから」である。2007年度以降の韓国語初級クラスで使用している教科書（教科書番号12/1・2年生、第3外国語として学ぶ上級生が使用）には、漢字の読み方のルールを学ぶステップがある。韓国語授業担当教師によると、2008年度の初級クラスは、本調査時にはそれらを学習済みである。

②「授業で使っている教科書で読んだから」という回答は少ない。使用していた教科書が番号11の場合、漢字語に関する説明がないため選べないということもあるが、初級でも②の回答は少ないため、選択肢を複数回答可と捉えなかった可能性も考えられる。

表6 Q7（対応を知ったきっかけ）の結果

選択肢	レベル		初級		中級		上級		合計	
① 授業で先生が説明したから	80.0%	36	90.5%	19	100.0%	7	84.9%	62		
② 授業で使っている教科書で読んだから	6.7%	3	4.8%	1	0.0%	0	5.5%	4		
③ 授業以外の学習書を読んだから	2.2%	1	0.0%	0	0.0%	0	1.4%	1		
④ 学んでいて気づいたから(時期・きっかけ)	4.4%	2	0.0%	0	0.0%	0	2.7%	2		
⑤ その他(理由自由記述)	6.7%	3	4.8%	1	0.0%	0	5.5%	4		
合計	100.0%	45	100.0%	21	100.0%	7	100.0%	73		
無効回答		2		0		0		2		
④ 時期・きっかけ ・1, 2ヵ月で・友達と話していて似た表現、音があった ⑤ その他の理由 ・友達に教わった。(3人) ・ドラマを見ていて										

#### 7.1.4. 漢字語と漢語の類似点が韓国語学習の容易さに繋がるという意識

漢字語と漢語の類似点によって韓国語が学習しやすいと感じるかについての質問（Q8）の結果を表7に示す。

全体でみると、約80%の学習者が質問に対して肯定的な回答の①や②を選び、韓国語の漢字語は日本語の漢語と類似点が多いから学習しやすいと捉えていることがわかる。

①、②を合わせた回答率をレベル別にみると、初級76.2%、中級85.3%、上級100.0%と、韓国語レベルが上がるとともに学習しやすいと感じる割合が段階的に高くなっている。

表7 Q8（漢字語と漢語の類似点が韓国語学習の容易さに繋がるという意識）の結果

選肢肢 レベル	初級		中級		上級		合計	
	① そう思う	22.1%	27	38.2%	13	75.0%	6	28.0%
② ややそう思う	54.1%	66	47.1%	16	25.0%	2	51.2%	84
③ あまりそう思わない	20.5%	25	14.7%	5	0.0%	0	18.3%	30
④ 全くそう思わない	3.3%	4	0.0%	0	0.0%	0	2.4%	4
合計	100.0%	122	100.0%	34	100.0%	8	100.0%	164

Q8に関しては、漢字語と漢語の類似点を知っている学習者と知らない学習者とで差があるであろうか。Q5、Q6の回答によって学習者を、共通語彙の存在、漢字の対応ともに知っている（Q5、Q6ともに①と回答）、共通語彙の存在は知っているが、漢字の対応は知らない（Q5で①、Q6で②と回答）、共通語彙の存在も漢字の対応も知らない（Q5で②と回答）の3グループに分け、グループごとにQ8の①～④の回答の結果を示したのが表8である。

表8 Q5、Q6（漢字語の認識）とQ8との関連

Q8の回答 Q5, Q6の回答	Q5の回答① Q6の回答①		Q5の回答① Q6の回答②		Q5の回答② (Q6対象外)		合計		無効 回答
	① そう思う	40.6%	28	26.3%	10	12.7%	7	27.8%	
② ややそう思う	42.0%	29	55.3%	21	61.8%	34	51.9%	84	0
③ あまりそう思わない	17.4%	12	15.8%	6	20.0%	11	17.9%	29	1
④ 全くそう思わない	0.0%	0	2.6%	1	5.5%	3	2.5%	4	0
合計	100.0%	69	100.0%	38	100.0%	55	100.0%	162	2

この比較から、「共通語彙の存在、漢字の対応ともに知っている（Q5, Q6とも①）」と回答した学習者の約40%が、Q8で①「そう思う」を選んでいたことがわかる。「共通語彙の存在は知っているが、漢字の対応は知らない（Q5:①, Q6:②）」または「共通語彙の存在を知らない（Q5:②）」と回答した学習者は、Q8で①よりも肯定の度合いが弱い、②「ややそう思う」と答える傾向にあった。

つまり、韓国語と日本語の類似点を知っている学習者は、類似点を利用できるため漢字語の学習を容易に感じ、共通語彙の存在を知っていても漢字の対応関係は知らない学習者、さらに、共通語彙があることを知らない学習者にとっては、両言語の類似点あまり利用できないため学習の容易さと繋がりにくく、このような結果が出たと考えられる。

#### 7.1.5. 漢字語と漢語の相違点に関する意識

漢字語と漢語の相違点が学習の妨げになると感じるかという質問（Q9）の結果を表9に示す。回答全体を見ると、①「そう思う」と、②「ややそう思う」の2項目を合わせた21.9%の学習者が、韓国語の漢字語と日本語の漢語の相違点が学習の妨げになると感じている。

レベル別では、初級と中級で似た傾向が見られ、①と②を合わせた回答率は初級が21.4%、中級が20.6%である。上級は①～④まで回答がわかれている。理由はわからないが、上級レベルの学習者は韓国語の学習が進み日本語との共通点・相違点がより見えてきたことで、単純には習得できない難しさを感じるようになったと解釈できるのではないか。

表9 Q9（漢字語と漢語の相違点が韓国語学習の妨げになるという意識）の結果

選択肢	レベル		初級		中級		上級		合計	
① そう思う	2.5%	3	0.0%	0	12.5%	1	2.4%	4		
② ややそう思う	18.9%	23	20.6%	7	25.0%	2	19.5%	32		
③ あまりそう思わない	67.2%	82	70.6%	24	37.5%	3	66.5%	109		
④ 全くそう思わない	11.5%	14	8.8%	3	25.0%	2	11.6%	19		
合計	100.0%	122	100.0%	34	100.0%	8	100.0%	164		

## 7.2. 漢字語力・感覚

漢字語を識別し対応する漢字を書く問題（Q10）の回答を以下のように分けた。

- ア：漢字語に対応する漢字を書いた
- イ：漢字語に語の意味を（漢字・平仮名）で書いた
- ウ：漢字語に線を引いた
- エ：漢字語に語の意味を書いた（不正解）
- オ：漢字語の一部に漢字を書いた（正解）または線を引いた
- カ：漢字語でない部分に意味を書いた
- キ：漢字語でない部分に線を引いた（漢字語の部分以上に引いたものを含む）
- 0：無回答

回答の分け方は文章のどの部分が漢字で書けるかわかる，つまり，漢字語が識別できることを基準とした。回答は，ア～エ「漢字語に対応する漢字がわかる・漢字語が識別できる」，オ「漢字一字としての認識はある」，カ～キ「漢字語の認識はない」と大きく3つに分けられる。

### 7.2.1. 漢字語別の結果

問題文に含まれている20の漢字語について，漢字語別に回答をア～オに分けて示したのが表10である。※行の英数字は，収録教科書数・類型・「ハングル能力検定」級の順に記載した。

「ア」の結果は回答率の良いものから，10. 학생（學生），19. 매일（毎日），2. 전화（電話），8. 영화（映畫）である。各語を収録している教科書数の多いもの，及び本論5. 韓国語教科書における漢字語の使用状況で示した漢字語の分類（A，B，C，X）でA（日本語に同じ構成の漢語があり意味もほぼ共通のもの）が上位となっている。

「ア～エ」を合わせた回答率の高い語は，8. 전화（電話），10. 학생（學生），7. 점심（點心），4. 공부（工夫）の順で，収録数が多いという点は「ア」の回答結果と共通の傾向である。しかし「ア～エ」の上位回答には，日本語に同じ文字構成の漢語はあるが意味が異なる（類型B）語が入っている。なお，1～20の各漢字語に対し「ア～エ」のいずれかを回答した割合を，学習者のレベル別に集計すると，初級11.7%，中級27.8%，上級70.6%である。日本語と韓国語の類似点で韓国語学習が容易に感じるかどうか，と

いう質問に対する回答の割合と同じく、漢字語を認識している割合も韓国語レベルが上  
 がると高くなっている。

表10 Q10の漢字語別（ア～オ）の結果

	1 兄		2 電話		3 冊		4 工夫		5 親舊／親旧		6 便紙		7 點心／点心	
※	11A5		11A5		11B5		11B5		11B5		11C5		10B4	
ア	3.0%	5	9.8%	16	0.0%	0	3.0%	5	0.6%	1	0.6%	1	0.0%	0
イ	0.0%	0	0.0%	0	6.1%	10	14.6%	24	13.4%	22	4.3%	7	4.9%	8
ウ	3.7%	6	32.9%	54	3.7%	6	14.0%	23	7.9%	13	18.9%	31	28.0%	46
エ	0.0%	0	0.6%	1	0.0%	0	0.6%	1	0.6%	1	2.4%	4	2.4%	4
オ	0.0%	0	0.6%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
0	93.3%	153	56.1%	92	90.2%	148	67.7%	111	77.4%	127	73.8%	121	64.6%	106
	8 映畫／映画		9 始作		10 學生／学生		11 藝術／芸術		12 専攻／専攻		13 近處／近処		14 人事	
※	10A5		10C5		11A5		3A3		7A3		6C4		7B4	
ア	9.8%	16	1.2%	2	26.8%	44	1.8%	3	1.8%	3	0.0%	0	0.0%	0
イ	0.0%	0	0.6%	1	0.6%	1	0.0%	0	0.0%	0	7.3%	12	3.0%	5
ウ	4.3%	7	14.0%	23	9.1%	15	3.0%	5	4.3%	7	5.5%	9	4.9%	8
エ	0.0%	0	1.2%	2	1.2%	2	0.0%	0	0.6%	1	0.6%	1	0.0%	0
オ	1.2%	2	0.0%	0	0.6%	1	0.6%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
0	84.8%	139	82.9%	136	61.6%	101	94.5%	155	93.3%	153	86.6%	142	92.1%	151
	15 理解		16 罪棟		17 電鐵／電鉄		18 停留場		19 毎日／毎日		20 跆拳道／跆拳道			
※	6A4		7C5		6B5		3B3		7A5		3Cs2			
ア	1.8%	3	0.0%	0	3.0%	5	1.8%	3	12.8%	21	0.0%	0		
イ	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	1.8%	3	0.0%	0	1.2%	2		
ウ	11.0%	18	8.5%	14	11.0%	18	11.6%	19	8.5%	14	11.0%	18		
エ	1.2%	2	0.6%	1	0.0%	0	0.0%	0	7.3%	12	0.6%	1		
オ	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	1.2%	2	1.2%	2	0.0%	0		
0	86.0%	141	90.9%	149	86.0%	141	83.5%	137	70.1%	115	87.2%	143		

### 7.2.2. 収録教科書数別の結果

次に、Q10の回答を収録教科書数別にまとめた結果を表11に示す。

表11 Q10の収録教科書数別（ア～エ）の結果

回答 教科書数	ア		ア～エ	
	回答数	回答率	回答数	回答率
11	72	6.3%	293	25.5%
10	18	3.7%	109	22.2%
7	24	3.7%	86	13.1%
6	8	1.6%	68	13.8%
3	6	1.2%	54	11.0%

漢字語に対応する漢字を書いた「ア」の回答と、漢字語であることがわかった「ア～エ」の回答は、どちらも収録教科書数が多い語ほど回答率が高くなっている。収録している教科書数が多い語というのは、基本的語彙とみなされているといえる。収録教科書数が多い漢字語ほど学習者の回答率が高いのは、それらの語の漢字や意味を既に覚える機会があったからではないか。

19. 매일 (毎日) については今回対象とした教科書では収録数が7冊とやや少ないが、日常的な語であるため回答率が高くなったと考えられる。また, 매일 (毎日) には「明日」と記述する誤答が複数ある。これは, 매일 (毎日) と, 「明日」を意味する내일 (來日/來日: 明日) が, ハングル字形, 発音, 意味などの点で似ているため生じたものであろう。

1. 형 (兄) と 3. 책 (冊) はいずれも収録教科書数が11冊と多い語であるが回答率が低く, 18. 정류장 (停留場) と 20. 태권도 (跆拳道) は少ないけれども「ウ」の回答率が高いことから, ハングル1字で書かれる語は, その語が漢字語かどうか気付きにくい, あるいは感じにくく, 3字の熟語は漢字語であるとわかりやすい可能性が考えられる。

### 7.2.3. 類型別の結果

続いて, Q10を漢字語と漢語の対応関係に基づくA～Cの類型別に分析した結果を表12に示す。

表12 Q10の類型別（ア～エ）の結果

回答 類型	ア		ア～エ	
	合計	回答率	合計	回答率
A	111	8.5%	256	19.5%
B	14	1.2%	225	19.6%
C	3	0.4%	129	15.7%

「ア」のみの回答はA（日本語と同じ文字構成の漢語があり、意味もほぼ共通のもの）の8.5%が最も高く、B（日本語と同じ文字構成の漢語はあるが、意味が異なるもの）や、C（日本語と同じ構成の漢語がないもの）はかなり低い結果が出ている。「ア」の回答では、AとBの回答率に差が出ているが、「ア～エ」の回答でみると、Aが19.5%、Bが19.6%であり、差はほとんど現れていない。

この結果は、日本語と同じ漢字で意味もほぼ同じであることが、必ずしも漢字語の認識と結びつくわけではないということを表している。そして、日本語と同じ文字構成の漢語があるものは、漢語の意味と異なっている場合でも、漢字語として記憶されやすいといえる。

Q10で、B、Cの語に対する回答に着目すると、4. 공부 (工夫) に「勉強」, 편지 (便紙) に「手紙」といった、漢字語の日本語訳にあたる漢語が書かれたものが多いことがわかる。それがどのような認識を持って書かれたものか、回答からは読み取ることができないが、ハングルと漢字の対応がわからないために漢字語の日本語訳にあたる漢語を書いたかも知れない。その場合、BとCでは日本語と韓国語で漢字表記に違いが生じて認識の状態がわかるが、Aでは両語の漢字表記が一致するため、違いが目に見える形で現れない。このように考えたとき、Aの語に書かれた漢字にもB、C同様に、対応する漢字と認識して記述したわけではなく、日本語訳を書いている可能性は大いにある。10. 학생 (學生/学生) に「生徒」をあてている回答からも、その可能性がうかがえる。

以上の分析から、漢字語に対応する漢字の記述において、収録教科書数が多く漢語と文字構成・意味が共通である漢字語は対応する漢字が書ける割合が高いことがわかった。

しかし、全体としてQ10の回答率は低く、ハングルで書かれた語を漢字語かどうか区別できる学習者が少ないこと、漢字語に対応する漢語を書くことができる学習者はさら

に少ないということが明らかになった。韓国語の語彙習得において、ハングルと漢字の対応関係は学習者に意識されていないといえる。

## 8. まとめ

### 8.1. 教科書に現れる漢字語と表記

韓国語教科書の調査結果から、以下のことが明らかになった。

- i. 教科書に収録されている語彙数に関わらず、漢字語は全体の30%前後含まれていた。
- ii. 教科書の漢字語を分類すると、類型Aにあたる語が70%強を占め、教科書から学ぶ漢字語は、日本語の漢語を当てはめて覚えられる語が多かった。
- iii. 漢字語に関する記述と表記については、漢字語に言及した部分が全くないもの、漢字語に記号をつけ漢字併記しているもの、漢字・漢字語に関する記述のみあるもの、など、漢字語彙習得に対する配慮や工夫は教科書ごとに大きく異なり様々であった。

### 8.2. 学習者の韓国語・漢字語に対する意識

アンケートの結果からは、学習者について以下のことが明らかになった。

- i. 漢字語と漢語の類似点については、両語の共通語彙の存在を知っている学習者が約65%で、そのうち、ハングルと漢字との対応も知っている学習者が約65%であった。授業で説明を聞いていても、わからないという学習者が少なくなかった。
- ii. 漢字語は漢語と類似点があるため学習しやすいと思う学習者は約80%で、両語の類似点を知っているほど、既有知識を語彙習得に活かせると考える傾向がみられた。
- iii. 漢字語に対応する漢字記述について、漢字が書けたのは収録教科書数が多く、漢語と構成・意味が共通である語であった。しかし、全体としての回答率は低かった。

### 8.3. 学習者の意識を活かした語彙習得

以上のように、教科書と学習者の調査で漢字語彙習得のポイントが明らかになった。今回の調査から、ある韓国語の語について「その語が漢字語であるかどうかの区別」と「その語の意味・日本語訳」がわかる人も、ハングルに対応する漢字でどのように記述で

きるか、というところまで意識して覚えていないことがみえた。Q10で점심(點心/点心:昼食)が漢字語であり、「昼食」という意味だとわかる学習者は多数いても、漢字語と対応する漢字「點心・点心」を答えられる人はほぼなく、学習者の持つ、漢字語と漢語は類似点があり学習しやすいという思いは、実際の語彙習得に生きていない。学習者が、점심という語を学ぶ際に「點心」あるいは「点心」と漢字も併せて記憶すれば、ハングルと漢字との対応関係を利用し、점수(點數/点数), 강점(強點/強点:強み), 심리(心理/心理), 열심(熱心/熱心)といった同漢字を使う語の推測・習得が容易になるはずである。

このことから、韓国語教科書に「漢字語に対応する漢字を併記する」意味がみえる。漢字語への記号や下線で学習者にその語が漢字語であると意識させるだけでなく、漢字併記をして対応を示すと漢字語彙の習得を促せる。その上で、韓国語の漢字の読み方などを体系的に学ぶことで、学習者の意識と漢字能力を活かした語彙習得に近づくと考えられる。

## 9. おわりに

本研究では、四年制大学で使用されている教科書に含まれる漢字語と、その扱われ方を記述・表記の点で明らかにしたうえで、韓国語学習者の漢字語に対する意識を探ってきた。

ただ、アンケートQ10の文章と語彙をより考慮すれば、収録教科書数と漢語との対応による類型以外に、漢字語の日本語の漢語との音韻的比較や、文中での位置、品詞など違った観点からの分析も考えられた。このような反省点はあるが、学習者の漢字語に対する考えを探ったことが、今後、教科書の収録語彙に関する研究や教科書作りに役立ち、学習者の意識を利用した韓国語教育が行われることを期待したい。

## 注

1. 現在日本での「大韓民国(以下、韓国)での使用言語」の呼称は複数あるが、本研究では教科書や大学で教えられる言語が調査対象であるため「韓国語」と表記する。
2. 生越直樹(2005, p.159)は韓国の漢字使用について、李漢燮(2005)を参照し、2005年における新聞の漢字使用比率がさらに低下していることを述べている。
3. 「漢字存在感」とは、日本語教育における漢字教育の観点から使われている用語で「こと

ばに対応した漢字があるはずとする感覚」海保・柏崎（2002, p.118）を指す。

4. Q10の文章作成にあたっては韓国語母語話者のチェックを受けたが、「⑧ 이해를 못해서 죄송합니다.」「⑨ 전철을 타려고 하는데요. 다음 정류장에서 내리면 됩니까?」という表現の方が自然であるとの指摘を韓国語クラスの先生から受けた。

#### 参考文献

- 安龍洙（1999）「日本語学習者の漢語の意味の習得における母語の影響について—韓国入学者と中国人学習者を比較して—」『第二言語としての日本語の習得研究』第3号 pp.5-18
- 安龍洙（2001）「日本語学習者の漢語の使用意識に関する研究—韓国入学者と中国人学習者を比較して—」『言語科学論集』第5号 pp.1-12
- 生越直樹（2005）「朝鮮語と漢字」村田雄二郎・C.ラマール『漢字圏の近代—ことばと国家』 pp.149-166 東京大学出版会
- 呉英元（2001）「日本における韓国語教育の現状と課題」『二松學舎大學論集』第44号 pp.A1-A17
- 海保博之（1983）『漢字情報処理の心理学』教育出版
- 桂正淑（2005）「日本における韓国語学習・教育の問題点:韓国語テキストの比較」『文化情報学駿河台大学文化情報学部紀要』第12巻 第2号 pp.33-45
- 金泰虎（2004）「日本における「朝鮮語」の名称」『言語と文化』第8号 pp.183-204
- 金泰虎（2005）「日本における韓国語教育の諸問題—初級韓国語テキストの文法用語・収録内容・語彙数,そして大学授業・検定試験との関連性を中心に—」『言語と文化』第9号 pp.217-235
- 国際文化フォーラム（2005）『日本の学校における韓国朝鮮語教育:大学等と高等学校の現状と課題』
- 志部昭平（1987）「朝鮮語における漢字語の位置」『日本語学』第6号 pp.85-96
- 志部昭平（1989）「漢字の用い方（韓国語との対照）」加藤彰彦『講座 日本語と日本語教育(9) 日本語の文字・表記(下)』 pp.194-212 明治書院
- 曹喜澈（1991）「日韓同形漢語の語義・用法の相違」『日本近代語研究1』 pp.73-91
- 曹喜澈（1994）「漢字系学習者のための漢字教育のあり方 韓国人の日本語学習者を中心に」『世界の日本語教育』第4号 pp.61-73
- 文嬉眞（2007）「韓国における文字政策—漢字教育の変遷について—」『愛知学院大学語研紀要』第32巻 第1号（通巻33号） pp.173-201
- 油谷幸利（2005）『日韓対照言語学入門』白帝社
- 李漢燮（1993）「現代韓国語における日本製漢語」『日本語学』第12巻 第7号 pp.102-113
- 李漢燮（2005）「最近の韓国における漢字事情（特集 ことばの日韓比較）」『日本語学』 第24巻

### Abstract

This thesis investigates vocabulary acquisition of 'Kanjigo' by examination of Kanjigo that appear in the Korean textbooks used at 4-year universities in Japan and the consciousness of Japanese learners of Kanjigo. I have studied Korean as the second foreign language. From my own experience, I felt that the knowledge of Kanji that I already have was useful for the acquisition of Kanjigo. To clarify this, I conducted two investigations.

I listed the vocabulary included in the textbooks, and classified the Kanjigo in them into four groups (A, B, C and X) by the relation with 'Kango'. On the basis of this result, I made a questionnaire investigating students' thought of Korean study, consciousness of the kanjigo and sense of Kanjigo. I obtained the answers from 164 Korean learners at Tokyo Woman's Christian University.

As a result of the analysis, of all the vocabulary in the textbooks, about 30% were Kanjigo. In classification of Kanjigo, the words with the same word composition and meaning as in Japanese (group A) accounted for about 70%.

The learners, especially those who know the common features in Kango and Kanjigo, thought that it is easy to learn Korean.

The rate of students' correct answers was high in the case that their textbooks included some of the common features of Kanjigo and Kanji.